

## 地域を守る農林業関係者への激励作文総評

総評

2022年7月に発足した本研究所の初めての作文懸賞の試みでした。2022年8月の豪雨災害から一年以上経つなかで、地域の復興は進みつつあり、被災者の皆さん、町民及び町外のボランティア、関連行政機関のご努力によるものであり改めて感謝申し上げます。この災害からの復興の姿とストーリーは、厳しい地球環境、気候非常事態状況下であっても、飯豊町がより輝く農村、住んで働き、子供を育て、ゆったりとした人生を満喫できる場・環境に向かうものへと貢献すると信じています。そんな思いを、多くの皆さんと一緒に共有できればと思います、今回の激励作文の懸賞事業を実施しました。

高校生・一般部門では社会人・大学院生から3点、小中学校部門では45点の応募があり感謝申し上げます。社会人からは、民俗学的視点から農業・家・村が農業・農村を支える三位一体論が独自に展開され興味深いものがありました。ただ、飯豊町の農業・農村の担い手を考える上ではこの三位一体を超えた挑戦的でより飯豊町に即した提案が欲しいと思いました。東京の大学院生からは飯豊町での調査研究で、田園風景、文化、人情に触れ、都市では感じられない心の弾みや、農村の空間価値、農林業を担う人々への激励が述べられていました。より具体的な農林業、特に課題の大きい林業のあり方、担い手のあり方への具体的な提案が欲しかったと思います。

小学生・中学生部門では町内在住の生徒の豪雨災害への恐怖、家族への思い、農地や施設が破壊されることへの憤りが多く書かれていました。子どもたちの心に多くの傷跡を残したと痛感しました。中でも、農業に励む家族の父、母、祖父母を気づかい、将来は農業を担う決意を新たにする頼もしい子ども達の心を垣間見ることができました。復興に進む町の姿を見て、町民や行政、関係者への感謝や町の一体感を述べる作文もあり、災害で傷ついた心が癒されていることも感じました。ただ、豪雨災害による森林の崩壊とその影響による河川や農地の破壊についての考察が希薄であったことは気になります。子どもたちの日々の暮らしや学びが山から遠くなっている、飯豊町の自然の豊かさと驚異が山にあることの気づきを深めてもらいたいと思いました。林業の担い手が町内で減少している現実を反映したともいえます。子どもたちがもっと森林の怖さと楽しさ・豊かさにふれる機会と場づくりへの貢献がいいで農村未来研究所に求められていると痛感しました。

多くの作文を書きいただき皆さんに感謝申し上げます。